

平成15年度 ー関西大学リーグ戦績ー

大学Bリーグ

全敗に終わるも残留を決める!

	花園大	大阪経済大	摂南大	甲南大	京都大	関西大	大阪産業大	大阪教育大	大阪市立大	神戸大	勝	負	分	順位
花園大	●	○	○	○	○	△	○	○	○	○	7	1	1	2
大阪経済大	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	8	0	1	1
摂南大	●	△	○	○	○	○	○	○	○	○	7	1	1	3
甲南大	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	6	3		4
京都大	●	●	●	●	○	●	●	●	●	○	1	8		9
関西大	△	●	●	●	○	○	●	●	○	○	3	5	1	7
大阪産業大	●	●	●	●	○	○	○	●	○	○	4	5		6
大阪教育大	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	5	4		5
大阪市立大	●	●	●	●	○	●	●	●	○	○	2	7		8
神戸大	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	0	9		10

主務 貴志 泰正

当初、今春の三商大戦および近国体において勝利した大阪市大、京都大学戦は勿論のこと、更に上位1-2校を倒し、Bリーグの上位進出を目指していたが、今シーズンは残念ながら怪我人が続出しベストメンバーで臨めず、或いは、試合に勝つための意思統一やモチベーションに欠ける場面があり、非常に残念な結果となりました。

第一戦 9月21日 VS京都大学

13:00K.O 宝ヶ池G

前 10 - 7
後 7 - 12
計 17 - 19

【戦評】

前半3分、ペナルティーゴールで先制。直後に逆転許すも、前半終了間際モールを押し込んでトライを奪い逆転。後半10分逆転を許すも17分に再逆転。しかし、シンピンで一時退場者が出た際にトライを許し、17-19で試合終了。惜しくも緒戦を落とした。

第二戦 9月28日 VS甲南大学

14:00K.O 甲南大学G

前 0 - 31
後 0 - 17
計 0 - 48

【戦評】

初戦の敗戦を取り返すべく挑んだ第二戦であったが、前半に5トライを許してしまう。後半は15分過ぎから均衡状態が続くも得点ができず完敗した。

第三戦 10月12日 VS摂南大学

13:10K.O 摂南大学G

前 5 - 29
後 0 - 34
計 5 - 63

【戦評】

前半3トライを先行されるが、24分ラインアウトからボールをキャッチしたFLがトライ。しかし、後半は、結局トライも取れず、大差を付けられての敗戦となった。

第四戦 10月19日 VS大阪経済大学

11:30K.O 関西大学千里山G

前 0 - 33
後 12 - 29
計 12 - 62

【戦評】

前半5トライ、後半5トライを奪われて一方的な展開となったが、後半32分にFBが、35分にセンターがトライ。大差の敗戦ながら最後に意地を見せた。

第五戦 10月26日 VS花園大学

14:40K.O 摂南大学G

前 7 - 36
後 12 - 26
計 19 - 62

【戦評】

2トライを許した後の前半10分、ハーフウェイ付近のラックよりボールをつなぎ最後はFBがトライ。後半もボックスで2トライを返すが、結局19-62で終了。しかし、得点パターンが見えて来た試合であった。

第六戦 11月2日 VS関西大学**13:10K.O 大阪経済大学攝津G**

前 0 - 38

後 12 - 29

計 12 - 67

【戦評】

勝ちにこだわって挑んだ試合であったが、前半で0-38と大きくリードを許す。後半2トライを先取するも、その後は得点を奪えず。67失点は今シーズンの最多となってしまった。

第七戦 11月16日 VS大阪教育大学**13:00K.O 関西大学千里山G**

前 17 - 29

後 14 - 31

計 31 - 60

【戦評】

今シーズン、初めて先制トライを挙げ、一度追いつかれるも、トライ、PGで一時は17-7と10点のリード。しかし、前半のラスト10分間に3トライを許し、17-29で折り返す。後半は2トライを許した後、2トライを返し、再度12点差まで詰め寄るも、最後は力尽きて敗れた。

第八戦 11月23日 VS大阪市立大学**11:30K.O 関西大学千里山G**

前 0 - 7

後 5 - 38

計 5 - 45

【戦評】

前半23分、敵陣に攻め込むもこぼれ球を拾われてトライを許す。前半はこれによる得点のみで終了。後半開始早々トライを許すも10分、モールからトライを挙げ、5-14。その後も敵陣で攻め続けるも得点が奪えず、逆に26分トライを許す。その後、終了までに4トライを取られ、勝ちにいった試合が大差の敗戦となった。

最終戦 11月29日 VS大阪産業大学**12:15K.O 長居球技場サブG**

前 3 - 24

後 0 - 19

計 3 - 43

【戦評】

前半2トライを許した後、PGで3点を返す。しかし、結局得点はこの3点のみでトライを奪えず。前半4トライ、後半3トライを許しての敗戦となった。

入 替 え 戦 は 辛 勝 !**— Bリーグ残留を決める —**

わが神戸大学(B10)の方が、実力的には数段優っていたが、Cリーグ優勝の大阪大学(C1)の気迫に押され、ひやひやさせられた試合運びであった。ともあれ、何とかBリーグの残留を決め、安堵の胸をなでおろすこ

とが出来た。因みに、同様に入替え戦に出場した京都大学(B9)は、大阪学院大学(C2)に52対5で快勝し、Bリーグ残留を決めたので、来シーズンは全く同じ顔ぶれでリーグ戦に臨むこととなった。

入替え戦 12月7日 VS大阪大学**13:00K.O 舞島球技場**

前 7 - 10

後 12 - 7

計 19 - 17

Cリーグで全勝優勝した大阪大学は、応援団を引き連れて応援を展開していたが、わが神戸大学もOB会事務局からの呼び掛けもあって沢山のOBが舞島グラウンドに馳せ参じ、現役プレイヤーの励ましに大声援を送った。

【試合経過】

試合開始早々、敵陣5ヤード前からモールを形成して執拗に攻め、右中間にトライ。強風下、ゴールも決まって幸先の良いスタートを切った。しかし、肝腎のラインアウトが全く決まらず、また、レフリーの裁定も読めず、肝心のポイントで反則を連発し、トライチャンスを悉く逸した。(少なくとも大阪大の3倍を超える反則を取られていた。)大阪大の1PG後、逆に、気迫に溢れたプレーに根負けして1トライを追加され、前半10対7と逆転された。後半、風下に立った神戸大は、交代出場したFBの活躍もあり、キックしか戦法の無い大阪大の攻撃を切り返し、続けて2トライを挙げ、逆転した。しかし、レフリーの裁定ミスとも思える不運な反則(アーリータックル)でシンピンを取られ、終盤にゴール真下に1本返された。

前半に多くのトライチャンスを逸した結果、スコアが示すように接戦模様となり、ひやひやさせられ展開となったが、わが神戸大がリードのままノーサイドを迎え、勝利した。久方ぶりの勝利に選手・OB・応援者は勝ち鬨をあげた。

全国地区対抗ラグビーフットボール大会**—あと一步、力及ばず惜敗—**

主務 貴志 泰正

1月4日 神戸大(近畿) VS 東北学院大(東北)**11:55 K.O 名古屋・瑞穂運動公園ラグビー場**

前 10 - 8

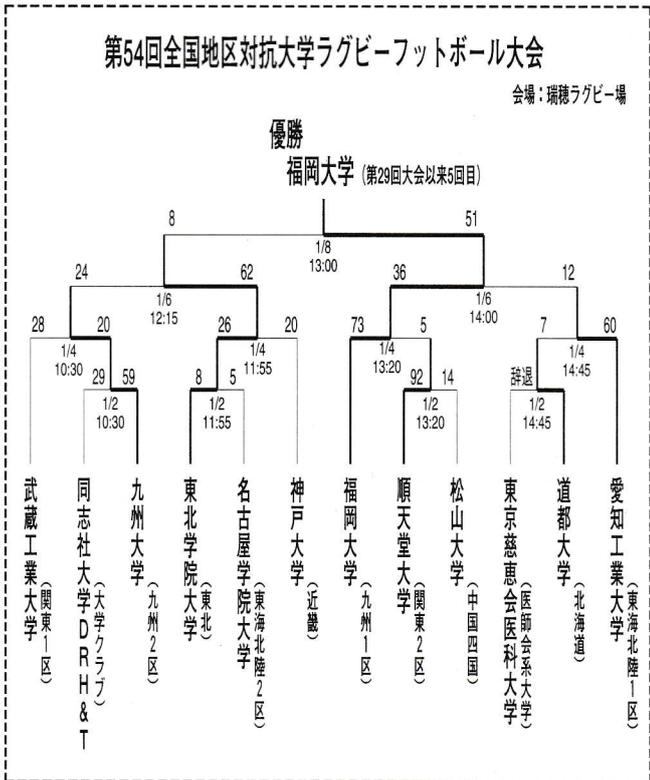
後 10 - 18

計 20 - 26

【戦評】

前半3分、神戸大は敵陣ゴール前のラインアウトよりモールを形成、そのまま押し込んで最後は②が右中間にトライして先制。しかし、7分自陣ゴール前のラインアウトからトライを奪われ、5-5の同点とされる。23分にPGを決められ、逆転を許すも、神戸大は、前半の終了間際、再び敵陣ラインアウトよりトライを奪い逆転。10-8で前半を折り返す。後半4分、PGを決められ逆

転を許すも、7分には神戸大もPGを決めて再逆転。しかし、12分にまたもPGで逆転されると、25分には自陣10mライン中央におけるラックよりボールを繋がれトライを許し、19-13とリードを広げられる。しかし、その後、神戸大は敵陣で粘り強く攻め続け、ついに33分ゴール前のPGからモールを形成し、最後は⑨が押さえてトライ。ゴールキックも⑭が決め、20-19と逆転に成功。しかし、35分、自陣ゴール前にてボールを継続され、最後はラックから持ち出されトライを奪われ、ゴールキックも成功。誠に残念ながら、ここでノーサイドとなりスコアは20-26。地区対抗戦は、あと一歩力及ばず、一試合で姿を消すこととなってしまった。



計 報

10月7日、太田奎吾顧問 (S27卒) 及び西松理夫氏 (S31卒) から、学部15回 (S20卒) の金田晴作先輩が9月1日にご逝去されたとの計報が入って参りました。

承れば、かつて西松理夫氏が凌霜ラガークラブ東京支部を立ち上げの折には、「金田先輩から設立に対し、大変お世話になった」とのコメントがありました。

金田氏自らが生前に記述されました「お別れの挨拶」並びに同氏とご一緒にプレーされました三宅秀乙先輩 (S22卒) の「追悼文」を掲載させていただき、謹んで金田先輩のご冥福をお祈り申し上げます。

後日談ですが、金田先輩に対するOB会のご香典は、OB会の活動費として寄付するようにとのご遺言があったとの由、ご令室からご丁重にもご寄付がありましたこと申し添えさせていただきます。

お別れの挨拶

金田 晴作 (学部15回 S20卒)

本日 (平成十五年九月一日) 冥土へ旅立つに際して、ご挨拶とお礼の言葉を申し上げます。私は平成十五年二月九日に満八十歳、傘寿を迎えました。

顧みれば、過去の大戦で南方から九死に一生を得て故国に帰還いたしました。また、戦後の苦しい時期には日本経済再建のため先兵として多くの国々に東奔西走、貿易業務に携わること四十年、日本復興のために微力ながら、その一役を担ってまいりましたが、幸い、苦難な時期も克服して、今日まで五十五年余り生きてまいりました。甚だ幸運であったとは言え、これひとえに、恩師、友人、知己、隣人の皆さま方のご指導、ご厚情、ご支援のお蔭であり、ここに厚くお礼申し上げます。又、晩年は幸い健康にも恵まれ、ここ武蔵野の面影を残し、自然に満ちた所沢の土地で、地域の方々と趣味やボランティア活動を通じて有意義な人生を送り得たことを大変有り難く思っています。

二十一世紀を迎え、我が国は大きな試練に立たされることと思いますが、皆さま方のご健康とお幸せを祈り、生前のご交誼に感謝しつつお別れいたします。なお、残りました家族に対しましても私と同様、よろしくご交誼の程お願い申し上げます。

皆さま大変有難うございました。 さようなら

金田さんを偲んで

三宅 秀乙 (予科2回生 S22卒)

9月20日予科一回生の千馬さんから、突然電話を頂いた。一回生の羽田、金田両氏が9月前後に相次いで亡くなったといふ知らせであった。羽田さんは、最近体調がすぐれなかった事は聞いて居たが、金田さんの知らせは突然の事であり、非常に驚いた次第であった。

思えば、昭和十六年予科2回生として、神戸商大予科に入学し、ラグビー部に入部した時の部員は総勢で十二・三人程度で、試合の時は他の運動部から助人を頼んで試合をして居た状態であった。戦中、戦後の事でユニフォームも靴もお粗末なもので、石コロだらけのグラウンドを時には、はだしで走ったものである。金田さんもフォワードの一員として、細身の軀で走って居た姿が、今でも目に浮かぶ。

戦時中、学業半ばで学徒出陣をし、金田さんは陸軍、小生は海軍と分かれたが、金田さんは南方で、小生は特攻隊として、お互いに九死に一生を得た経験は同じである。

卒業後は同じ貿易業界に身を投じ、海外を駆け巡り、今日の日本経済に貢献したとの、共通の思いを持って居た。その後、お互いに東京に居るを定めて二十数年になるが、毎年行なわれる凌霜ラグビー東京支部の集りには出

席し、よもやま話に花を咲かせて居たのであったが、五・六年前からは出席しなくなり、毎年の年賀状の交換でお互いの近況、健康を報告し合うのが通例となって居た。

然し、これからは金田さんの温顔に接する事が出来なくなると思ふと寂しさ一入である。

謹んで御冥福をお祈り致します。

訃 報

誠に遺憾の極みですが、手術後の経過も良く、元気に活躍しておられました西松理夫氏(S31年卒)が、11月16日ご急逝との報に接しました。お通夜・告別式は、ご遺族のご意向により近親者及び親しい方々によって芦屋マイトリールホールにおいて厳かに執り行なわれ、当OB会より子安会長、太田顧問を始め東京から野川支部長、名取氏が、また、山口監督ほか、一部の理事・OBが参列しました。

在りし日の勇姿を偲び、御霊安かれとお祈り申し上げます。

故 西松理夫君を悼む

会長 子安 武 (S26卒)

昨年11月に入って病状急変と聞き、覚悟はしていたが、17日朝、息子さんから訃報を聞いた時は、流石にがっくりした。9月末、近大病院で会った時は軽口を叩き合いながら談笑したので何とか乗り越えて呉れないものかと一縷の望みを抱いていたのだが・・・。頑健な身体とバイタリティの権化のような君が、私より早く逝くとは、全く痛恨の極みだ。

君との出会いは君が入部した時だった。あれから60年が過ぎた。長い付き合いだ。入って来た時の君は、これでラグビーがやれるかと言う感じだったが、次第に本領を発揮して卒業する時にはガッツのある良いプレイヤーになっていた。君は練習の虫で、キックの練習では絞って呉れている上級生をフラフラにさせていたのを懐かしく想い出す。

卒業後は凌霜ラグークラブでプレーする傍ら、勤務先のユニチカにラグビー部を創り、東京に転勤すると凌霜ラグークラブの東京チームを創り、一方では、地元の松戸市に少年ラグビースクールを創って面倒を見ていた。大阪本社に戻ると、芦屋楽惑クラブに入って遂に死ぬ直前の7月まで走っていた。将にラグビーこそ、君の人生だった。

大阪勤務になってからは、故井沢君(S30卒)と一緒にOB会の世話もよくやって呉れた。「自分の人生の原点は、神戸大ラグビー部にある」との強い思いで、OB会の運営に情熱を捧げて呉れた。君の足跡の中で、誰もが認める特筆すべきことは、創部75周年のビッグイベントを実現させたことだ。過去、誰も出来なかった記念事業を計画から実行まで、あの短期間で見事にやり遂げた力量には唯々頭が下がる。今あらためて心からお礼を言いたい。

60年の長い付き合いの中で、想い出は余りにも多過ぎ

て語り尽くせない。これはお互いの胸の中に大切にしまっておこう。

君のことだ、まだまだ娑婆に未練があるだろうし、もともっと走りたかったろう。其れを想うと、君の命を奪った病魔に限り無い憤りを感じる。然し、今はもう仕方が無い。どうか安らかに先に逝った井沢君と好きな暮を楽しんで呉れ。遠からず我々も追いかけてゆくのだから・・・。

素晴らしいラグーマン・西松君！仲間全員で心から君の冥福を祈ります。どうか安らかに眠って呉れ。そして神戸大ラグビーをずっと見守ってやって呉れ。名残りは尽きないが、これで別れよう。

さようなら、チョロヤン。

訃 報 ご 通 知

謹んでご連絡申し上げますとともに衷心からご冥福をお祈り申し上げます。

9月1日ご逝去	金田 晴作氏 (S20卒)
9月5日ご逝去	羽田 彰 氏 (S20卒)
10月15日ご逝去	福井 澄男氏 (S25卒)
11月13日ご逝去	永峰 秀彦氏 (S42卒)
11月16日ご逝去	西松 理夫氏 (S31卒)

一凌霜ラガー・コンペのご案内一

恒例のゴルフ・コンペが下記の要領にて開催されます。

桜咲く好季、日頃の喧騒を忘れ白球を追いませんか？

OB各位の奮ってのご参加をお待ちします。

(1) 開催日時 平成16年4月10日(土曜日)

(2) 場 所 未定(中国道沿いで設営予定)

*出席ご希望の方は、理事・三森啓章氏(S59卒)

までご連絡ください。

連絡先：自宅電話 (06) 6380-8261

勤務先 帝人(株) (06) 6268-2434

e-mail hmimori@teijin.co.jp

一現役のホームページにもアクセスしてください！一

2003年3月から、現役部員が運営するホームページ、「神戸大学体育会ラグビー部」が構築されております。アクセスすれば、部の紹介、メンバー、練習日、試合結果などを見ることが出来ます。

URLは、<http://koberfc.fc2web.com/> です。

楽しく、しかも早く、クラブの活動状況を知ることが出来ます！

編 集 後 記

凌霜ラガー通信は毎年6月と12月に発行するようになっていますが、今回は全国地区対抗大学RF大会が新春に開催されたこともあり、少し遅れました。お詫びいたします。